

Safety Data Sheet

安全データシート

1. 製品及び会社情報


製品名	かび Zero 水性 防かび・撥水剤
種類	防カビ剤入り撥水剤
主な用途	モルタルコンクリートや木材に防カビと撥水効果を付与
会社名	株式会社 吉田製油所
郵便番号&住所	〒110-0005 東京都台東区上野 3 - 22 - 8 新ジイドビル
担当部門	川崎工場 品質管理部
担当者	品質管理部長
電話	044-288-5522 (月~金, 9:00a.m.-5:00p.m.)
Fax	044-277-7721
作成日	2013年6月20日、2014年1月20日、2014年9月11日、2016年10月31日
Web Address	http://www.ysds.co.jp/

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

皮膚感作性	区分 1
生殖毒性	区分 1B
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2

GHS ラベル要素

注意喚起語	危険
GHS シンボル	

危険有害性情報

H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H360	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H371	中枢神経系、全身毒性、視覚器の障害のおそれ
H373	長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、視覚器の障害のおそれ

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

H302	飲み込むと有害
------	---------

安全対策の注意書き

P103	使用前にラベルをよく読むこと。
P201	使用前に取扱説明書を入手すること。
P202	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260	ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
P264	取扱い後は、手や顔などをよく洗うこと。
P270	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
P280	保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護帽を着用すること。

応急処置の注意書き

P308+P313	ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断を受けること。
P312	気分が悪い時は医師に連絡すること。
P302+P352	皮膚に付着した場合は、多量の水と石鹸で洗うこと。
P332+P313	皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断を受けること。
P362+P364	汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管（貯蔵）の注意書き

P405	施錠して保管すること。
------	-------------

廃棄の注意書き

P501	内容物又は容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

以下の注意事項に関しては GHS 分類結果より、GHS ラベル要素は非該当であるが、取扱い時には注意すること

P102	子供の手の届かないところに置くこと。
P263	妊娠中、授乳期中は接触を避けること。
P273	環境への放出を避けること。
P404	密閉容器に保管すること。
P410	日光から遮断すること。
P305+P351+P338	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337+P313	眼の刺激が続き場合、医師の診断を受けること。

3.組成、成分情報

単一/混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名 : イソチアゾリン系薬剤の混合剤

別名 : 防カビ剤入り水性撥水剤

成分	CAS No.	含有量
イソチアゾリン系混合薬剤	N/A	2.0%以下
シリコン系撥水剤	N/A	5~15%
メタノール	67-56-1	0.5~1.0%
精製水	7732-18-5	残

4. 応急処置

以下のいかなる場合においても、応急処置を速やかに行い、必ず医師の診断を受けること。

吸入した場合	ミスト、スプレー等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にする。異常を感じた場合には医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服を速やかに脱ぐ。汚染された衣服を再使用する場合には、洗濯等で汚れを綺麗に落としてから使用すること。外観に変化がある場合、又は痛みが続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	直ちに清浄な水で洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、外すことが可能であれば、取り除いて洗浄する。異物感が眼に残るようであれば、速やかに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、口の中をよくすすぎ、直ちに医師の診断を受ける。意識がしっかりとしている場合には、可能であれば医師の診断までの間に気道に入れないように吐き出させる。

応急処置をする者の保護	救助を行う者が有害物質等に触れないように手袋、ゴーグル、マスク等の保護具を着用すること。汚染された場合には、すぐに衣類や保護具を取り除くこと。
-------------	---

5. 火災時の処理

消火剤	泡、粉末、炭酸ガス、砂等による消火。
特定の消火方法	消防隊に火災の場所と危険有害性を伝える。
	避難誘導を速やかに行う。
	適切な遮断のある風上の安全な距離から消火する。
	可能な場合、容器や可燃性の製品等を周囲から素早く取り除く。
	容器や周囲の設備等に散水をして、出来る限り冷却する
安全な場合には、火災の危険が排除されるまで、電気機器のスイッチを切る。	
消火を行う者の保護	必ず保護具（呼吸器系の保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用し、製品の吸入や煙との接触を避けるため、風上から作業する。

6. 漏出時の処置

人体に対する 注意事項	ミスト、スプレーの吸入及び、皮膚と眼の接触を避ける。
	作業の際には、必ず保護具を着用する。
	関係者以外は立ち入り禁止とする。
環境に対する 注意処置	河川などに排出され、環境に影響を起こさないように注意する。
	水で洗い流す必要がある場合には、乾燥砂、土、その他の不燃性のものを用意し、排水をそれに吸収させること。吸収させたものは法規に基づいて処理を行う。
二次災害の防止策	着火源となるものは、速やかに取り除く。
	内容物が飛散した場合には、人が近づかないように指示をし、飛散したものを掃き集め、法規に基づいた処理を行う。
	集めた飛散物は、処理するまで密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
	漏出物の上をむやみに歩かないように、ロープ等で立入りできないように配慮する。

7. 取扱い及び保管上の注意

技術的対策	労働安全衛生法、消防法などの関連法規に準拠して作業する。
	本剤に記載されている注意事項、使用方法等もよく読み、それに従った取り扱いを行うこと。
	本剤を多量に塗布すると、白化する現象があるため、あらかじめ目立たない場所で試し塗りをを行うこと。
	呼吸器管の弱い人、アレルギー症状やかぶれの起きやすい人、病人、妊婦、乳幼児等がいる場合には絶対に使用しないこと。
	容器は、その都度密栓する。一度開封したものは、出来るだけ早く使い切ること。
	製品を取り扱う時に使用するすべての装置は、接地しておく必要があります。また装置はすべて防爆型を使用すること。
	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体を洗浄するための設備を設置すること。
局所排気・全体排気	密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業すること。

安全取扱注意事項	子供の手の届かない場所に保管すること。
	火気、直射日光及び湿気を避け、飲食物、食器類、飼料等とは区別し保管すること。
	使用後の容器は、各自治体の廃棄方法に従い破棄してください。
	容器を転倒、落下させる、引きずるまたは容器に衝撃を加える等の粗暴な取り扱いをしない。
	飲み込みを避ける。
	取扱い後はよく手を洗う。
	皮膚との接触を避ける。
	粉塵の吸入を避ける。
	熱源、火気から遠ざける。 静電気対策を実施する。

適切な保管条件	直射日光を避け、火気、放電、高温物から遠ざけて保管する。
	火気に注意する。
	通気の良い、日陰の場所に保管する
安全な容器包装材料	本容器以外の容器は使用できません。保管の際は、必ず密封すること。

8.曝露防止及び人に対する保護処置

<製品として>

管理濃度 : 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会 : 未設定

ACGIH : 未設定

<メタノール>

管理濃度 : 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会 : 未設定

ACGIH : 200ppm

9.物理及び化学的性質

形状	液体
色	微白透明
臭い	特異臭
pH	7.36

10.安定性及び反応性

1	安定性	通常の冷暗所での保管条件下では安定。
2	避けるべき条件	強アルカリとの反応を避けること。成分の一部が加水分解を起こす。
3	分解生成物	通常の使用方法で分解することはない。
	備考	防カビ剤の急性毒性は LD ₅₀ 5500mg/kg (マウス)

11.有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分1のものを0.1%以上含んでいるため、区分1とした。皮膚に接触すると、アレルギー作用を示している結果がある。
生殖毒性	生殖毒性が区分1のものを0.1%以上含んでいる。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	中枢神経系、全身毒性、視覚器に影響を与える可能性があり、且つ麻酔作用を含む。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）	中枢神経系、視覚器に影響を与える可能性がある。
-----------------	-------------------------

12.環境影響情報

水生環境有害性（急性）	区分外
水性環境有害性（長期間）	区分外

生態毒性 (防カビ剤)	魚毒性	LC ₅₀ (96H) 2mg/L (代表成分よりの推定値)
----------------	-----	---

13.廃棄上の注意

焼却処理の際は、珪藻土等に付着させて、開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。適切な設備での焼却をお願いします。洗浄した排水等も、地面や排水溝へそのまま流さず、必ず回収をして適切な処置をしてください。また、必要に応じて、有機溶剤用マスク等の保護具の着用をお願いします。焼却の際には廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。使用後の容器は、各地方自治体の廃棄方法に従い廃棄してください。

14.輸送上の注意

国連番号	該当しない
国連分類	該当しない
国連輸送品名	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
陸上輸送	道路法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。

15.適用法令

消防法	該当しない			
労働安全衛生法	名称などを表示し、又は通知すべき危険物及び有害物	表示・通知対象の有無	名称	政令番号 (別表第9)
		表示義務・通知義務	メタノール	560

16.その他の情報

危険・有害性の評価は現時点で入手出来る資料、データに基づいて作成しているが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証もなすものではない。また、注意事項は通常の手配を対象としたものであって、特別な手配をする場合には用途・用法および状況に適した安全対策を実施の上、手配には十分に注意すること。すべての化学製品には未知の危険性・有害性があり得るため、手配には細心の注意が必要である。使用者の責任において、安全な使用条件を設定すること。

引用文献

- ・GHS 対応 SDS・ラベル作成ガイドブック改訂第2版 社団法人日本塗料工業会 平成24年7月発行
- ・GHS 分類結果データベース 独立法人製品評価技術基盤機構、アクセス日：2016/10/31
- ・Globally Harmonized System of Classification And Labelling Of Chemicals(GHS), Fifth revised edition. United Nations New York and Geneva,2013.
- ・JIS Z 7253 : 2012 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)、日本規格協会 発行
- ・入手した他社原材料 SDS/MSDS